

| 実践校に関する事項 | | |
|--|-------------|---------------|
| 学校区分 | 学校名 | 学校長名 |
| 高等学校 | 和歌山県立熊野高等学校 | 入澤 和彦 |
| 学校所在地 | | |
| 〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670番地 tel 0739(47)1004 fax 0739(47)4200 | | |
| 担当者名 | | 役職名・担当教科 |
| 酒井久視／宮地良斉／河野剛士／田城賢司 | | 教諭・公民科 |
| 〔学校の概要〕 | | |
| <p>和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、熊野古道が本格的な山道〔中辺路〕に分け入るところである。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めて熊野参詣道について学習する意義が高まった。</p> <p>本校は1923年紀南農学校として開学し、その後、熊野林業学校と改称し、以来林業を学ぶことができる高校として発展してきた。平成16年に総合学科高校として再出発し、平成20年に看護科が移設され、現在に至っている。</p> <p>純朴でどの子どももよくあいさつをし、部活動に積極的である。</p> <p>また、町内唯一の高校であることから、上富田町と学校クラブ・サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や部活交流を行い、地域との関わりが深い学校である。</p> <p>昨年度より新型コロナウイルスの感染拡大により、活動の制限を余儀なくされる中、可能な形を模索し、活動を継続する努力が続けられている。</p> <p>なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。</p> | | |
| 研究実践に関する事項 | | |
| 対象者児童・生徒 | 学習支援者等(延人数) | 主な活動場所 |
| 学年2・3年生 41名 | 職員 4名 | 2号館情報処理教室・会議室 |
| 実践研究テーマ | | |
| 世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化 | | |
| 実践教科等名 | 単元名 | |
| 学校設定科目 社会文化研究(地歴公民科) | 地域の歴史文化 | |
| 〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 観光 | | |
| 〔単元目標〕 | | |
| <p>(1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。</p> <p>(2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。</p> <p>(3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生の視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。</p> <p>(4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p> | | |
| 〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕 | | |
| 全体 50 時間 (「世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化」 10 時間) | | |
| 〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 | | |
| <p>和歌山県世界遺産センター 特別講演会〔山西所長〕 世界遺産講座 次世代育成事業</p> <p>和歌山県世界遺産マスター 現地学習</p> | | |

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

| | 主な学習活動 | 学習への支援 | 評価方法等 |
|----|---|--|--|
| 1 | 現地学習「潮見峠」 3年が進路学習のため、2年生のみ | 歴史的な背景の解説。 保存整備の現状の解説。 〔バイオトイレなど〕 | 〔関心・意欲〕 見学時の取り組み 〔知識・理解〕 ワークシート |
| 2 | | | |
| 3 | 特別講演「観光からみた和歌山の魅力」 山西和歌山県世界遺産センター所長 | ワーク時における巡回指導を行う。 | 〔関心・意欲〕 ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート・感想文 |
| 4 | | | |
| 5 | 世界遺産入門 紀伊山地の霊場と参詣道 世界遺産センター職員による講義とワークショップを通して、「紀伊山地の | ワーク時における巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。 | 〔関心・意欲〕 ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート |
| 6 | 霊場と参詣道」について、基本的な知識〔ルートや王子とは何か等〕や「文化的景観とは何か」について学習する。 | | |
| 7 | 熊野古道フィールドワーク 高校生自身が感じる熊野古道の魅力をテーマに、世界遺産マスターの方々によるガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。熊野古道の魅力を体感し、「熊野古道フォトエッセイ」 | 「熊野古道フォトエッセイ」の作成意図を明示し、目的を持って現地学習に臨めるように事前学習を行う。 | 〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 情報収集の成果 (写真等) |
| 8 | 作成のため、写真撮影等を行いながら情報を収集する。 | | |
| 9 | 熊野古道フォトエッセイ作製 フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するためのフォトエッセイを作製する。 | Word の操作や写真の配置等、適宜技術的なアドバイスを行う。 | 〔技能・表現〕 作製したフォトエッセイ |
| 10 | | | |

〔単元学習の成果と課題〕

本単元は年間の学習の柱の1つである。講義によって世界遺産の意義や参詣道が持つ“顕著な普遍的な価値”を理解した上で、現地学習を行うことで、生徒自身の感性と知識が結びつき、より深い理解につながった。さらに今年度、特別講演を受講することで、海外からどう捉えられているのか、その価値を伝えるため、高校生がどのようなことができるかについて学習することができたため、フォトエッセイ作製の動機づけを強めることができた。他の学習テーマとの日程調整があり、連続した学習にならなかった。この点については指導者の方で前時の学習内容とのつながりをさらに明確にしておけば、系統性を高めることができたと感じている。

〔世界遺産学習の効果〕

学校設定科目「社会文化研究」のねらいに「和歌山の歴史文化を理解すること」がある。世界遺産学習を設定することで、身近な地域の自然や文化が世界的にも認められた価値を持つことを知り、単に知識としてではなく、継承・保存するべきものとして、地域の文化を理解することができる。多少なりとも、社会参加への意欲も養うことができた。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

この単元とは別に上富田町内の事業所を取材し、紹介するためのホームページづくりを行った。これらの学習活動と世界遺産学習をあわせ、今後のまちづくりを考えるといった学習に発展させたい。また、田辺市街の参詣道、大辺路ルートについても現地学習の可能性を含めて検討していきたい。

様式 2

令和 3 年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

熊野古道フィールドワーク〔令和 3 年 1 2 月 2 1 日（火）実施〕

2・3 年生 3 9 名（4 班編成）が参加した。

世界遺産マスターの方にガイドをしていただき、熊野古道館・滝尻王子～高原熊野神社を歩いた。道中、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力に感じた風景を撮影し、古道の魅力を感じながら、フィールドワークを行った。

《日程》

1 3 : 2 0 滝尻王子

1 6 : 0 0 熊野高原神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

フィールドワークの際撮影した写真の中から 1 枚のみを選び、その写真を撮影した理由を通して、熊野古道の魅力を伝えるエッセイ。古道に関する情報は 200 字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

*今年度は授業時間の関係で 2 年生のみが作成した。

| | |
|--------------------------|-----|
| いのち 生命をつなぐ熊野古道 | |
| 社会文化研究選択生 | 2 年 |

滝尻王子は、富田川と石船川が合流する地点にあります。熊野九十九王子社のうち最も重要視された社格の高い五体王子社にも数えられ、後鳥羽・上皇の一行もこの社前で御歌会を催されたと伝えられています。富田川はかつて岩田川と呼ばれ、熊野詣の重要な垢離場のひとつでした。

岩田川とは熊野古道中辺路を歩く道者が初めて出会う熊野の霊域から流れ出ている川であり、熊野詣の道中で最も神聖視された川であったのです。道者が初めて岩田川に出会う稲葉根王子から熊野の霊域の入り口である滝尻王子まで、道者は十何度と岩田川を徒渉しました。それは、熊野から流れる清らかな川の流を徒歩で渡ることで罪業をぬぐいさることができると考えられたからです。

・乳岩

滝尻王子を後に、少し古道を歩くと岩と岩の間を抜けると右手に岩があります。その岩こそが「乳岩」です。そのむかし、奥州の豪族 藤原秀衡 が、婦人を伴って熊野詣でにきた際に、ここで婦人が急に産気づき、この岩屋で出産したという言い伝えがあります。藤原夫妻はここに産まれた赤子を残して熊野に向かいました。その間、赤子はこの岩から滴り落ちる乳を飲み、狼に守られ無事だったため、奥州に連れ帰ったと伝えられています。この赤子が成長して、秀衡の三



男 和泉三郎忠衡 になったという説もあります。私は、この話を聞いたときにオオカミが面倒をみてくれた事実にも目を開きました。肉食動物であるはずのオオカミが、赤子を食わずに守り続けていたなんて信じられなかったからです。逆に捉えれば、オオカミも生命を亡きものにせず守り、後世に繋げていこうと思うほどに熊野古道は神秘的でかつ魅力的だったのかも知れません。ひとつの生命をも守った世界遺産、熊野古道。次は私たちが歴史を後世に繋ぐ番なのかも知れません。

| | |
|---------------------------------------|-----|
| 自然あふれる熊野古道 ～高原神社の魅力～ | |
| 社会文化研究選択生 | 2 年 |

滝尻王子(たきじりおうじ)は、富田川と石船川が合流する地点にあります。熊野九十九王子社のうち最も重要視された社格の高い五体王子社にも数えられ、後鳥羽上皇の一行もこの社前で御歌会を催されていたと伝えられています。杉木立に囲まれた小さな社殿に往時の姿が偲べれます。

高原熊野神社は高原地区の産土神で、熊野古道・中辺路(なかへち)沿いにあり、不寝王子と大門王子との間に位置します。高原王子と呼ばれることもあります。平安時代から鎌倉時代にかけてこの神社は存在せず、熊野九十九王子のうちには入れられません。

高原神社の周りには見上げるくらいの大木がたくさんあり大木から差し込む光がとてもきれいでした。上を見上げると360° 緑に囲まれていてすごく落ち着く場所でした。こんなにたくさんの自然に囲まれている神社は他には見たことがありません。

熊野古道を歩いて道のりはとても長く、坂道も多くてすごくしんどかったけれどその分たくさんの歴史と自然を感じることができました。

たくさん大木に囲まれているので日差しがあまりなく、影が多かったのととても涼しかったです。観光客がわざわざ遠くから歩きに来る理由がわかったような気がします。世界遺産がこんな近くにあるのはとてもすごいことなのだと思います。初めて熊野古道を歩いた人は「もう一度歩きたいもう一度行きたい」と思うくらい素晴らしいものだと思います。また機会があればもう一度熊野古道に歩きに行きたいです。



岩々が魅せる熊野の魅力 ～人々を魅了する熊野～

社会文化研究選択生

2年

私は、身近な世界遺産である熊野古道の魅力を知るために、ガイドさんに案内してもらいながら約3時間歩きました。様々な神社や場所を紹介してもらいましたが、中でも特に印象に残っている「胎内くぐり」について説明したいと思います。

滝尻王子の左側から、「熊野の霊城の入り口」といわれている熊野古道へ入っていきます。石段になっていて、かなりの急な上りです。約15分 ゆっくり上っていきくと、古道に沿って横たわる巨大な岩があります。それには人ひとりがやっと通れる程の穴（岩と岩のすき間）があいていて、地元の人は、春秋のお彼岸の日には、この岩穴をくぐって山上にある亀石と呼ばれる石塔に参ったそうです。この岩穴をくぐることを、「胎内くぐり」とよばれ、女性が胎内くぐりをすれば安産になると信じられていました。女性は必ずこの胎内くぐりをして行ったそうです。

私はこの岩穴を見て、はじめは、ただの岩が重なっているだけの場所かと思いました。多分、説明を聞くまではそう思う人も多いかと思いますが、「胎内くぐり」のことを知ってからもう一度この岩場をよく見てみると、考えが変わって、なんだか神秘的な場所だな、と思いました。今回、私たちが歩いた道は、足場が不安定だったり、道が狭かったり、登るのはしんどかったし、大変だったけど、この「胎内くぐり」のような素敵な世界遺産を身近で見たり、体験できるなら、しんどさや大変さを乗り越えてでも一度は訪れてみるべき場所だとも思いました。熊野古道にはたくさんの魅力があり、世界の人々に認められる理由が分かった気がしました。



超えてでも一度は訪れてみるべき場所だとも思いました。熊野古道にはたくさんの魅力があり、世界の人々に認められる理由が分かった気がしました。

熊野へ 行こう！！

熊野古道から見る絶景

社会文化研究選択生

2年

- ・レイアウトは自由。
- ・左下の文字数を見て、フォントの大きさや写真のサイズを考える。

コース紹介

スタートは滝尻王子。
滝尻王子は富田川と石船川が合流する地点に鎮座します。かつてはこの王子社が熊野三山の霊域の始まりとされていました。

また、滝尻王子周辺には、熊野古道など熊野古道に関する様々な展示や観光案内を行っており、世界遺産 熊野古道 滝尻王子の無人体験所・滝尻茶屋もあります。

歩き始めると、滝尻王子の裏手からいきなり急坂が始まります。

胎内くぐり、乳岩、不寝王子を経て「剱ノ山経塚跡」までは急な登りが続きます。歩き始める前までは緩やかな上り坂だと思っていたので、実際の道がとても急な上り坂でびっくりしたし、すごく疲れました。20分ほど上ると巨岩にほかりと穴があいている「胎内くぐり」がありました。トートが掛けられるぐらいの大きさで、女性がくぐると安産すると伝えられています。この日はくぐっていませんが、また歩く機会があればくぐってみたいと思いました。「不寝王子」からしばらく歩くと「剱ノ山経塚跡」に着きます。急な上りはひとまずこの付近まででここからは少しなだらかな山道となり、下っていくと舗装道路と交差します。道路を渡ると再び急な階段状の上り坂が続きます。上りきったから少し歩けば高原熊野神社に着きます。



高原熊野神社

高原熊野神社は高原地区の産土神で熊野古道・中辺路沿いにあり、不寝王子と大門王子との間にあります。この神社に伝わる磐山の裏面には応永十年の路があり、若王子を熊野本宮から勧請されたことが記されています。

高原の里

上の方に貼ってある写真は神社の近くにある「高原の里」です。駐車場もあり、ここから見た景色はすごくきれいでした。熊野古道には他に色々な景色が人に見られない素敵な景色がたくさんあるのでぜひ一度歩いてみてください！

ほぼ90度の閻魔様コース！？

～滝尻王子からの険しい道のり～

社会文化研究選択生

2年

現地学習は登山・・・！？

2021年が終わるころに私たちは熊野古道滝尻コースを歩きました。スタートは滝尻王子。滝尻王子の裏手から、急な坂が始まります。以前登った「熊野古道お姫様コース（発心門-本宮大社）」と呼ばれている、なだらかで緩やかな遠足に適しているようなコースを想像していたためびっくり！いきなりはじまるほぼ90度な坂道に私たちは苦戦していました。整地されたコンクリートの道とは180度かけ離れたほぼ自然の坂道は、手すりもなく木の根を階段にしたような感じで、まさに「登山」という言葉が相応しいように思えました。



・実はあの有名な人も？

今回歩いたコース、実はあの有名な後鳥羽上皇も鎌倉時代に参詣したといわれています。ところが、1度きりではないというのです。普通に考えればなんで！？と疑問に思われる方も少なくはないはず！では、何故そのように何度も何度も参詣したのでしょうか。

それは・・・当時、熊野詣は貴族の中での流行であったためです。苦行をすることによって報われるという逆転の発想からなるものでした。京都から本宮までの距離を往復し、それによりたくさんの方が参拝したといわれています。

・・・ということは

私たちが登ったときと同じことを昔の人は思ったかもしれませんね！

実際、私は登るときに「しんどい」や「景色が綺麗」などといったことを考えながら歩きました。だからこそ、先ほど紹介した昔の人々は何を思って登ったのかを考えたり、途中途にある歴史ある名所にふれたり、また、同じ道を歩いたうえで新しい発見を試みたりと「登る」だけでなく「楽しむ」ことができるかもしれませんね。

・現地学習を終えて

実は今回の学習の際にかかった時間は3時間でした。予定していたよりも1時間オーバーで高原熊野神社に到着です。しかし、実際の距離は4km程らしくとても驚きました。体感した距離は10kmだったからです。そう考えると昔の人々は整地もされず、動きにくい恰好での参拝に感動しました。しかも京都から何度も行き来しているなんて心から尊敬です。こういった機会は今後ないようにも思えます、貴重な体験をこのような形でできて、考えられて本当に良かったです。